

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800422		
法人名	特定非営利活動法人 宅老所 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい 室津		
所在地	山口県下関市豊浦町大字室津下1443-1		
自己評価作成日	平成25年7月11日	評価結果市町受理日	平成26年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎月の勉強会や外部研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。
・日常での些細な変化も介護職と看護職で常に相談、情報交換し適切な受診や看護が受けられる様に支援している。
・毎日入浴実施、24時間温水完備しているので希望に応じた入浴が出来ます。清潔を保ち状態観察も把握に努め楽しく心地良い時間が過ごせる様支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域のどんと焼きや花まつり、公民館まつり、神社の秋まつり、春秋の法座、寺のライブなどの地域の行事へ利用者と一緒に参加されたり、ボランティア(銭太鼓、日本舞踊、寸劇)の来訪や小学生の体験学習の受け入れ、近所の人から手づくりの作品や野菜の差し入れがあるなど、地域とのつながりを深めておられます。運営推進会議に地域の8自治会の会長が交代で参加され、事業所への理解と認知症の啓発につなげておられる他、自治会長より、近隣の個人宅を災害時の避難場所とする提案があり、了解を得られるなど、運営推進会議を活かした取り組みをされています。事業所内に自衛消防組織をつくられ、月1回、事業所独自で昼夜想定通報避難訓練を実施されている他、年2回の避難訓練に運営推進会議のメンバーの呼びかけにより、地域の人々も参加されるなど、災害時に備えた協力体制を築いておられます。ボランティアとの交流やオルガン演奏、陶芸教室、カルタ、法座、卓球、ラジオ体操、季節の行事などの楽しみごとや活躍できる場面をたくさんつくっておられ、利用者が張合いや喜びのある日々が過ごせるよう取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念はネームプレート裏面に掲げいつでも確認できる状態にしている。各事業所独自の理念はいつでも誰でも目に付く所に掲げ毎朝の朝礼時唱和する事で意識を持つ事につなげている。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。理念は常に確認できるようにしている。年1回、理念や運営方針について内部研修を実施し、職員は理解し共有して、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントには積極的に参加し、小学生との交流により認知症の方の理解を広め運営推進会議を活用し地域の方の施設の受け入れも図っている。	地域のどんど焼きや花まつり、公民館まつり、神社の秋まつり、寺の春秋の法座、寺でのライブ、中学校の運動会に利用者と一緒に出演している。事業所には子ども祭りの神輿や駐在所の警察官が立ち寄る他、小学生が体験学習で来訪している。ディサービスの催しに来訪するボランティア(銭太鼓、日本舞踊、寸劇)との交流、近所の人からの手作りの小物や野菜の差し入れや散歩時の挨拶など、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに参加する事によって、地域の方々との交流を図りコミュニケーションを取って理解して頂いたり、支援の方法は普通に交流を持って頂ける様に努めている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員にはこの書類を渡す時と職員会議で実施する意義を理解してもらう為に説明している。評価を生かし取り組んでいこうと思う。	評価の意義について説明し、全職員で自己評価に取り組んでいる。評価を、日々のケアの振り返りや見直しと捉えている。年2回救急救命法を受講する他、内部研修で緊急時の対応(脱水症、熱中症)やAEDの使用訓練に取り組むなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてサービスの実際・評価の取り組み状況について報告や話し合いを行い意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、地区自治会長8人が交代で参加している他、新たに駐在所、公民館館長(第三者委員)を参加メンバーに加え、現状報告、行事、活動報告、外部評価結果、研修などについて報告し、風水害などについて話し合っている。自治会長より指定の避難場所は遠いので、近隣の個人宅の庭先を避難場所とする提案があり、了解を得られるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でサービスの取り組みや事業所の実情は積極的に伝え協力関係を築くように取り組んでいる。	担当課とは、運営推進会議の他、出向いて相談や情報交換をする他、退居者の確認等について、電話で話し合うなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは利用者の入居について、相談や情報交換をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で学習したりマニュアルもあり身体拘束は行っていない。玄関・戸・窓を開放し利用者の意思で開閉が出来るようにしている。	外部研修や内部研修で学び、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、外出を察知した場合は、一緒に出かけたり、声かけの工夫をするなどの支援をしている。スピーチロックについては、管理者や主任が指導する他、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の研修で学習し、各人が把握し現場において職員間で見過ごす事がないようにコミュニケーションを図り虐待防止に積極的に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について、職員は勉強会や研修で学んでいる。必要性がある場合、活用出来る様にしたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明と納得は主に管理者が行っている。利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの相談・苦情の受付体制や処理手続きはスピーディーにしている。又、それらを職員に表せる機会を設け運営に反映させている。	運営推進会議や食事会出席時、面会時、行事参加時、電話、FAXで要望や意見を聞く機会を設けている。契約時に苦情受付体制や処理手続きを家族に説明している。意見箱を設置している。運営推進会議の開催曜日の変更についての家族の意見を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は常に上司にあげ、検討・反映されている。	月1回の職員会議や朝夕のミーティングで意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で聞いている。入浴介助等の業務手順の見直しなどの意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績は日々の報告により上司に伝えている。職場環境条件は以前よりも良くなってきていると思う。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修、勉強会や新人の育成など取り組んでいる。新人の育成には時間がかかるが、基礎からゆっくり取り組んでいる。	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じ、勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は復命報告をして、資料を閲覧できるようにしている。法人研修は年2回、参加している。内部研修は年間計画を作成して、月1回「理念と倫理」や「身体拘束と虐待」、「リスクマネジメント」などについて実施している。新人職員は日常業務の中で介護技術や知識を学び、面談ノートで確認するなど、働きながら学べるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問(同業者)等の活動していないが、社内外の勉強会で同業者の方が講師で来られたり、GH協会の研修会に参加させて頂きサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない施設生活で不安を拡大しないように密にコミュニケーションをとり、他入居者との交流にも気を配り孤立・引きこもりを防ぐ為に本人のペースに配慮して関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランに添った介護計画に本人・家族の不安や要望等を取り入れ家族にしっかり説明し納得していただいている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が今優先して取り組んで欲しい支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で支え、支えられるという関係を保ちながら、その人に必要な支援を提供する事で普通の生活が送れるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議時や面会時に常に本人の報告や家族からの相談等共に本人を支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のイベントにお連れしたりお買い物にお連れしたり散歩してご近所の方とお話をされたりと関係の途切れない様に支援に努めている。	友人や知人、隣人、親戚、昔経営していた店の従業員等の来訪がある他、馴染みの店への買い物や美容院の利用、神社の初詣、どんど焼き、昔の知人との外食等に出かけている。家族の協力を得ての外泊、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度が違い対応が困難な事もあるが、一人一人が孤立しない様に外出行事では全員で交流を図る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されれば職員と本人・家族の関係性は無くなってしまうが、管理者は今までの関係性を大切に、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝礼・夕礼・職員会議などで希望や意向の把握に努めている。	アセスメントシートの活用や、日々のケアの中での利用者の言動や表情、会話などを介護記録に記録し、朝夕のミーティングや職員会議で共有して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、職員間で本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴、暮らし方、環境サービス利用状況等の把握に努め、又利用者から聞く事もあり伝えている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で利用者の心身状態や1日の過ごし方等、記録や職員と共有しながら現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方や意見、アイデアなど職員はその都度情報交換し現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に全職員と月1回カンファレンスを開催し、家族や主治医、看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている。要望や状態の変化があった場合は、モニタリングに基づいて見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子、ケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し朝礼・夕礼で情報を共有し介護計画に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、個々に柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元に溶け込んで行ける様に行事の参加や自治会からの回覧で地域の方々と交流を持ち楽しく暮らしていけるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常の様子を医師に報告し、定期的に受診に行ったり異常時の緊急対応等連携して支援に努めている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の受診の支援や2週間に1回の往診がある。受診時には、バイタルなどの記録情報を持参し、受診結果等は家族に伝えるなど、情報を共有している。他科受診についても事業所が支援している。緊急時については、協力医療機関の夜間や休日の対応があるなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員との連携プレーによりその場での処置や病院の受診などの判断を助言してもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関との連携が取れており、関係作りに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた対応は家族・医師・看護師・管理者・職員で取り組み、家族の要望に添えるように支援し、取り組んでいる。	契約時に「ターミナルケアの説明書」に基づいて、事業所ができる対応について、家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合には、早い段階から家族、医師、看護師、職員等と話し合い、医療機関や他施設への移設も含め、方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日常生活においての安全な環境整備の充実・見守り重視・万一の場合を考え救急対応の学習をしたり、ヒヤリハットの検討をしたり、職員全員で危機意識を持ち対応している。	ヒヤリハット、事故報告書にその日の職員間で話し合った対応策を記録して、朝のミーティングで説明し、共有する他、職員会議で再度確認して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署の協力を得て、救急救命法(年2回)を全職員が受講している。内部研修でAEDの使用訓練や緊急時の対応(骨折、誤嚥、脱水症、熱中症)について勉強会を実施している。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立ち会いによる消防訓練を含め、毎月の避難訓練や防災の勉強会など施設内で行い実技訓練に取り組んでいる。	消防署の協力を得て、昼夜想定避難訓練を年2回実施し、利用者と一緒に避難経路の確認、消火器の使用訓練をしている。運営推進会議のメンバーの呼びかけにより、地域の人も参加している。事業所内に自衛消防組織をつくり、月1回、事業所独自に昼夜想定通報訓練や車椅子利用の避難訓練等を実施している。運営推進会議で自治会長より災害時の避難場所が遠いので、近くの個人宅を避難場所にとの提案があり、地元の人に受け入れてもらうなど、地域との協力関係を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の対応には常に人生の先輩である事を考慮し、方言を交えた敬語で対応している。本人からの訴えは優先して対応に心がけている。	倫理及び法令遵守、プライバシー保護に関する研修を実施し、職員は理解して利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。日々の関わり中で管理者、主任は気になる対応等がある時には指導をしている。個人情報などの記録は保管して取り扱いに注意し、守秘義務については徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望は出来るだけ受け入れる様努力している。自己決定は日常生活の中で働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースによりその人らしい暮らしが出来る様希望に沿って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意思を尊重しているが意思疎通の困難な利用者には声掛けしながら支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来る範囲のお手伝いはして頂いているが、それらもごく一部の利用者に限られている。	三食とも配食サービスを利用している。ご飯は、事業所で炊いている。月2回は事業所で昼食をつくり、利用者は下ごしらえ、台拭き、後片付け、食器拭きなどを職員と一緒にしている。同じ食卓で利用者と職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。季節ごとの行事食やおやつづくり(おはぎ、ホットケーキ、どら焼きなど)、弁当を作ったの外出の他、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことができる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の業者を利用し、栄養面でも一人一人の摂取量を確保し支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをし、汚れや臭いが生じない様にケアしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを理解し、その方に合った方法で支援している。職員同士の情報の共有をしている。	利用者一人ひとりの健康管理表や排泄表を参考に、排泄パターンや習慣を把握し、時間を見図りながらの声かけをして、トイレでの排泄や排泄に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動への働きかけ、医師・看護師・介護職員との連携で少しずつ予防し、取り組んでいて良い方向に進んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	24時間温水完備しているので希望に応じた入浴が楽しめる。当苑では日中の入浴声掛けを行っている。	入浴は毎日9時30分から11時50分頃までと13時30分から17時頃まで希望に添ってゆっくりと入浴できるように支援している。状態によりシャワー浴や清拭の対応もしている。入浴したくない人には声かけの工夫や時間をずらしたり、別の日に変更するなどの工夫をして、入浴を楽しむことができる支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に使用出来る様に居室にはベッドや布団などその人に応じた寝具があり、リビングにも長ソファや床空間があるので利用できる。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状についての様子、観察、薬の把握を行う為に朝礼・夕礼・職員会議などで理解出来る様に努めている。症状の変化には常に気を付けて早めの対応をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションに活かしたり生活活動に發揮してもらい気分転換の支援をしている。	お茶会、法座、折り紙、新聞折り、陶芸教室、オルガン演奏、カルタ、卓球、ボール投げ、本や新聞を読む、体操(口腔、リハビリ、嚥下、ラジオ、梅干し)、洗濯物たたみ、食器拭き、季節行事(節分、七夕まつり、運動会、秋まつり、クリスマス会など)、歌、カラオケ、手すり拭き、ボランティア(銭太鼓、日本舞踊、寸劇)との交流など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある日々を過ごせるように支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて戸外への散歩をしたり、家族の方の了解のもと地域の行事に参加したり音楽を聴きに行ったりしている。	近隣の散歩、寺の法座、歌謡コンサート、地域のまつり(神社の秋まつり、どんど焼き、コスモス祭り、公民館まつり、花まつり)、花見(桜、菖蒲、コスモス、菜の花等)、みかん狩り、ピクニック、駅前ライブ、初詣等の他、家族の協力を得ての外出など、その日の希望に添って戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持はしていない。必要な時は御家族に連絡し職員と一緒に本人が買い物に行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は本人保管で部屋の壁に貼っていつでも読んで楽しんでもらえるように支援している。電話は事務所にあるのでいつでも発信・受信の支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で明るい空間を共有して頂き、リラックスしていただける様工夫している。写真を廊下や居室に貼ったり、季節の花などを飾ったり利用者の作品を飾ったりして楽しんでいた	広くゆったりした共用空間のオープンキッチン前の広いテーブルの上には、季節の花を掛け壁面には絵や利用者と一緒に作った折り紙の作品が飾っており、廊下には行事の写真が飾ってある。テレビの前のソファの周りにはぬいぐるみが置いてあり、利用者はソファに座って談笑したり、思い思いの場所で過ごしている。床暖房、加湿器、エアコンを設置し、温度、換気などに配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事を食べる所やくつろぐ空間、ソファやテレビなどを置いて思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や好みの物を置いてもらい、居心地のいい工夫をしている。	ダンス、テーブル、衣装ケース、オルガン、座椅子、時計、ベッド、写真、絵の額、カレンダー、ぬいぐるみなど利用者の大切な物や使い慣れた物、好みの物を持ち込み本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の安全な環境を整備し、一人一人に応じた自立した生活が送れるように努めている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあじさい室津

作成日：平成 26 年 1 月 8日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付ける	看護師指導による応急手当や初期対応の研修を継続的に実施する。 全職員が消防署による救命講習を受講する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。